

駆け足チェック「中部国際空港」

中部国際空港 = セントレアが開港して、まもなく1ヶ月が経つ。長年にわたり空港問題に関心をもってきたので、とにかく駆け足でチェックに出かけることにした。

名古屋から28分というアクセスが「売り」であるが、金山に着いた時は特急が出たばかりであり、かなり待って急行で空港に向かった。昼間は最速の特急は1時間に2本であり、思ったより「遠い」というのが実感であった。帰りは座席指定の最速特急に乗るつもりであったが、かなり先まで満席であり、よく止まる特急で名古屋に戻った。これも満員であり、大きなバックを抱えた乗客はぐったり疲れた感じであった。

常滑駅を過ぎると、すぐに前島が見えてくる。写真のように建物は一つもなく、広々とした空き地がつづいている。やはり自分の目で前島の現実を見ると、思いは複雑なものがある。空港の活況とあまりにも対照的な、さびしい限りの前島に未来はあるのか。無人駅で降りて、土の感触を確かめたかったが、時間もないので空港に直行した。



空港は平日の午後というのに、相変わらず込み合っていた。とにかく滑走路が見える先端まで行き、それから小奇麗な店が並ぶ「横丁」をすこし歩いた。報道のように中部空港は名古屋空港などと違って、いろいろ「配慮」がなされており、「さすが」と感じた点もいくつかあった。



空港が一つの「まち」を形成しており、旅行会社の戦略もあって「観光スポット」になっている。飛行機を利用する乗客よりも、こうした観光客や周辺住民のほうが圧倒的に多い。非航空収入を「あて」にする空港会社にとって、予想以上の人気のようなのだが、乗客にとって食事もままならないという苦情も寄せられている。名鉄などのアクセスについても同様だ。いちばん大事な航空機の定時運行も、強風や霧、機材の調整などにより遅れが目立つという。

(3月15日 記)